

日本語支援を始めるきっかけ

高石優子

日本語支援を始めるきっかけは様々でしょう。

その日、久しぶりに日系ペルー人の学習者Pさんがわが家にやって来ました。彼女は20年程日本に住んでいるので、日常会話はほぼ問題ないのですが、読み書きの学習は必要です。

この日は山日新聞のコラムを生教材として使用し、その時話題になっていた、「わたしの視点、共謀罪」を取り上げました。

分からない語句や言い回しの説明、その語句の例題を作ったり、最後に文章の内容を理解させました。また筆者の職業や経歴をみて、それが内容に影響しているかなど感想や意見を出し合いました。

テキストばかりでなく、学習者さんに合った生教材は時に必要です。それでもいつも満足のいく支援ができるとも限らず反省しながらやっています。



Pさんとは「山梨日本語ボランティアの会」YNVを知るずっと以前に出会いました。

当時日本に来たばかりで、日本語の先生を探していたところ、たまたま仕事先で尋ねられ、「先生が見つかるまで、わたしが日本語の勉強を手伝いましょうか」と、返事したのがきっかけでした。

それから毎週末、片道1時間かけてわたしのところに来るくらいの熱心さでしたので、それに応えなければ、という思いでした。

Pさんは英語ができたので、「Japanese for busy people」というテキストを用いて、初級の日本語支援は克服できたように思います。

その後「Y日本語学校」に行ったり、YNVの会員さんにもお世話になったそうです。

そんな経験があつて、7～8年ほど経ちましたが、この会YNVに出会い、入会しました。

そこからいろんな国の学習希望者さんを紹介してもらいました。
支援する期間はそれぞれ異なりますが、韓国人の主婦の方たち、山梨で働いているドイツ人やアメリカ人、
また個人的に頼まれたタイ人の大学生、カナダ人、ペルーの中学生たちとも支援する機会に恵まれました。
国も、周りの環境も違い、日本語のレベル、目標も異なりますので、それぞれの学習者さんに合わせて、試行錯誤しながら支援しています。

「支援」というと自分から学習者さんに、というイメージですが、実は学習者さんたちから教わるものも大きいです。

書ききれませんが、例を挙げますと、
韓国人の主婦の方たちは料理にかかる時間は半端なく、
タイの学生さんの宗教の信仰の深さに驚き、
ペルーの子供たちは言葉の問題で学校生活で大変な思いをしているのにも関わらず、明るく前向きで、こちらの方が元気をもらえたりします。
それぞれの文化や習慣、考え方に驚いたり、感心したり、励まされたり、それがまた楽しく、支援のエネルギーにもなります。

初めにお話ししました P さんへの日本語支援は一時中断しましたが、家族ぐるみの付き合いはずっと続いていました。
家族や親戚のパーティーに参加させてもらったり、その家に外国のお友達が来るときには、こちらの友達も連れて行って、日本の茶道の体験をさせたり、着物を着せたりして、日本の文化も伝えられます。
言葉の支援から始まって、文化の紹介など、多方面に広がっていきます。



日系ハワイ、ペルーと日本のお友達

最近また P さんの日本語学習をお手伝いしています。
日本語は上達し、当時の学習内容とは違いますが...、
YNV にお世話になり支援を続けたことで、彼女にもより高いレベルの日本語支援を続けることができます。